授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立南学校　　氏名　佐藤　敏之

単元名　　第２学年　　「ポテトスープが大好きな猫」

実践のポイント（工夫）

・「論理的な文章」とは何だろう？ということをまずは学級全体で確認した。

・文章を論理的にまとめるための前段階である「取材」の行程を学級の友人と協力して行い、

　自分の意見を述べるための根拠となる“具体的な例”をいくつか学級全体で共有した上で、

　その中から自分の考えに一番合う材料を選択させた上で意見文を書かせた。

実践内容

|  |
| --- |
| 1. 物語のメインキャストである「おじいさん」と「猫」の言動に着目しながら、二人のすれ違いと和解を通して物語の理解を深めた。
2. 「猫」の好きな食べ物が、なぜ他の食べ物ではなく「ポテト・スープ」なのかについて、他の食べ物（魚のスープ、ポテトサラダ、高級料理、缶詰やレトルト食品）と比較しながら考えた。

　　　→魚のスープについて教師主導の全体指導で考え方の見本を示した。　　　→グループごとに食べ物を一つずつ指定し、話し合わせた。　　　→話し合った内容を発表させた。1. 「『ポテト・スープ』がこの物語の中でどのような役割を果たしているか」という意見文を②で出てきた食べ物との比較から自分が良いと思ったものを一つ選択させ、意見文を書かせた。
2. 学年全体の中で、よく書けている意見文をいくつか紹介し、どこがどんなふうにいいかを考えさせた。
 |

振り返り（成果や課題）

＜成果＞

・書く上での材料を自分で考えるのではなく、友達と協力して考えさせることで、自らの意見の根拠となる“具体的な例”をどのように考えればいいのか、という思考過程を協同的に取り組ませることができた。また、他のグループが考えたものを使用しても構わないとしたことで、より良い材料を利用した上で“具体的な例”をどのように自分の意見につなげていくか、という構想過程に生徒の意識を焦点化させることができたように思う。

＜課題＞

・あまり多くを求めず、「材料集め」と「材料の利用」にポイントを置いて取り組ませた分、文全体の構成が生徒によってはまとまり切れておらず、“具体的な例”が自らの意見を述べるための根拠として充分な機能を果たすに至っていない生徒も見られた。今後、基本的な文章の構成力を１０分程度で取り組めるような短作文等で培っていけたらと思う。